

災害環境研究プログラム 環境創生研究プログラム

委員会からの主要意見

現状についての評価・質問等

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ○福島県を対象とした被災地の復旧・復興に関わる実学的研究であり、精力的に取り組んでいる。 ○地域との連携が良く取れており、アウトリーチ活動を通じて復興のビジョン作成や拠点事業計画支援として住民と対話しながら展開している点などが高く評価できる。 ○地域の課題が、創生のスキームにどのように組み込まれるのか、また、環境回復プログラムとどのように連携していくのかが示されるとよい。 |
|---|

今後への期待など

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ○住民参加型の環境創生について、社会実装が期待される。 ○災害の種類によって”災害に強い”の意味が異なってくる。災害復興にアプローチする際の方向性や対応の最適化に係る知見が見いだされることも期待する。 ○福島県内の特定の対象地域だけではなく、この取組みが広く被災地に適用されることを期待する。多様な災害地に広範に活用できるモデル開発や、モデル化による予測精度の検証も必要ではないか。 |
|---|

主要意見に対する国環研の考え方

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ①福島県自治体との連携関係を活かしつつ、行政計画への反映、地域住民との交流、事業推進への参画を通じて、社会実装研究の理論と手法を構築してまいります。 ②福島での災害復興を最初の研究対象としながら、地域の長期的な課題やそのほかの災害要素も視野に入れ、また地域創生の在り方を考えることも視野に入れて研究を進めてまいります。 ③連携している自治体だけではなく、福島県、被災地域への展開及びその他の地域へ活用する研究を指向してまいります。具体的な地域実装を通じてモデルと手法の有用性を高める研究アプローチの構築も検討いたします。 |
|--|